

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 10 月 19 日（土）14 時 00 分～15 時 33 分

場 所：円山地域文化センター

出席者：9 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 今年度のまちの動き（資料①）

※質疑応答 なし

4. これからのまちづくり（資料②）

5. 懇談

6. その他

（1）出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）

※質疑応答

7. 閉会

《質疑応答》

【栗山赤十字病院について】

町長：

日赤病院の問題は難題。他の会場で、近隣で連携協力して拠点病院を作るべきではという意見が出たが、病院は町の根幹なので、それぞれが病院存続に向けた取り組みを行っている。

国や道がリーダーシップをとって動かなければ広域連携で病院を作ることは難しい。他の町はダウンサイジングなどで対策しているが、栗山町は建て替えの時期が迫っているため、他の町とはタイムラグがある。

町民：

難しい問題だが、栗山町に病院があったほうがいい。

別な町の人から聞いた話では、夕張市では病院が診療所に縮小されているが、栗山町に行くとバスで病院や買い物に行くことができ、とても住みやすい環境が整っていて良い町と言われる。

町長：

現在、入院患者の約 7 割、通院患者の約 8 割が町民であり、総合病院的な役割を果たしている。企業誘致の際にも総合病院があるかどうかは大きな差となる。

福祉総括：

4 町連携になると、南幌町は 6 割が札幌方面に入院患者が行き、栗山町にはほとんど来ていない。長沼町も札幌圏に入院患者が 43% 行っている。通院では、地元か札幌方面が多い。南幌町や長沼町は、患者が札幌圏を向いているため、栗山町に拠点病院を建て、患者に来てもらうのはなかなか難しい状況がある。日赤病院に耐震強度の問題がある中、今年度中には方向付けしたい。

町長：

現時点で方向付けはするが、それで決定というわけではない。財政的な問題もあるが、病院問題は最優先課題と思っている。方向付けをしてから実際に完成するまでには 7～8 年かかると言われているため、まずは方向付けをし、出発点を決めたいと思っている。

町民：

田舎なので救急車を呼んでも時間がかかる。これで、日赤病院がなくなり岩見沢まで行くとなると、助かるものも助からない。

町民：

他の町民が来ていないという話があったが、今の病院の状態も悪い。町民に、あんな病院にかかるのは嫌だと思われるのも原因の一つ。そんな病院には良い先生も集まってこないと思う。病院が改築されて新しくなれば、良い先生が来てくれると思うし、患者も、岩見沢市ではなくて日赤病院で良いという方が増えると思う。町民に頼られる病院にしていくことが必要になる。

町長：

アンケートでも患者への対応の悪さを指摘した内容が多く寄せられた。日赤病院側にも伝えて、改善してもらうように進めていきたい。

【北海道介護福祉学校について】

町長：

介護福祉学校も窮地に立たされている。卒業生は、町外に出て活躍されている人も多い。国に話をしたところ、道が主導して広域で学生を確保すべく進めていくべき問題ではないかと言われたが、道にはなかなか動いてもらえない。

今後定員を 40 人に削減しても、その定員 40 人が埋まらない状況になれば、閉校も考えなければならない。

町民：

介護のお世話になっていくことになるが、少子高齢化の影響もあり、これから介護に需要が増えてくると思う。介護職の不人気もあるが、地元で介護の仕事に就きたいと思う若い人も多いと思う。政治の力も必要だと思う。田舎は高齢者が多いので、介護の仕事も当然必要になると思う。

町長：

介護士の問題は、政治的にもとても難しい問題。外国人の活用や、有資格者、シルバー人材などの掘り起こしで対応しようと国は考えているようだが、養成校を出たしっかりとした介護福祉士を起用しなければ難しいと思う。介護福祉学校全体の数が経営悪化によりこの 5 年間で 2 割減少した。この傾向は続くと推測され、養成校自体がどんどん減少していくと思われる。

教育長：

介護福祉学校の卒業生は、実践的な教育を受けているので、就職しても即戦力になる人材が多

く需要が高い。しかし、なぜこのような状況になっているかといえば、介護のイメージが報道などで悪い印象を受けていることも要因の一つ。また、令和4年度から、介護福祉士が国家試験制になることもある。高校への働き掛けに加え、今後は、保護者への働き掛けも行い生徒数を確保していく。また、介護のノウハウを町民などに提供するなど、介護福祉学校が町に貢献する場を作っていくことも必要。自分たちで経営していくことも必要だが、町と連携していくことも必要になってくる。

【栗山高等学校について】

町民：

幼稚園が無償化になったこともあり、介護福祉学校、栗山高校、日赤病院などにも支援はあったほうが良いのではないかと思う。

教育次長：

昨年実績では、栗山中学校卒業生の7割が岩見沢方面に進学している。学区が変わり進学できなかったことが要因。栗山高校が変わっていかなければならない。三笠高校のように人気校に変わっている例もあるが、三笠市内の中学生は一人も進学していない。地元の子どもが進学できない学校になってしまっている。

この先、普通科高校としてやっていくのか、三笠高校のような特色を持たせていくのか、栗山町ならではの魅力ある高校にしたいと教育委員会で話し合いを進めている。今年の栗山中学校の卒業生は94人で去年よりも多い。近隣の市町村、中学校を回り栗山高校をPRしていく。

町民：

栗山高校は、成績の良い子が勉強をしっかりとできる環境が必要。成績の悪い子をふるいに掛けられない。勉強のできる子は、どうしても他の学校に行ってしまう。

町民：

高校に普通科と福祉科を作ってみてはどうか。

町長：

文部科学省と意見交換し、福祉の高専化等も検討したが、難しい問題もある。職業専門の学科などいろいろな可能性を追求していく。普通科2クラスはこれからの時代は難しいと思うので、国の動きとしても、高校教育の段階から将来につながっていくような選択をさせる方針にシフトしていく。一方で、中学卒業時点で将来のことを決めさせるような教育をしていくのかという批判の声もあり、じっくり検討していく必要があると考えている。